

## 地域特性把握調査：昆虫類調査について

## ○はじめに

植生タイプ別調査時に発見された大台ヶ原の特徴を表す昆虫について、地域特性把握調査として記録を集積している。本年度も希少種・固有種・指標種調査を実施しており、指標種としてヒメボタル、ハバチ類を対象とした。

## ○ヒメボタル調査

## 1) 目的

ヒメボタルは陸生貝類を食餌としており、湿潤な森林の指標となると考えられる。植生回復の指標として特に西大台で柵内・柵外の比較を行い防鹿柵設置の効果検証を試みる。

## 2) 方法

- ・調査範囲：任意に設定した調査地点 大台山の家周辺、駐車場周辺、対照区タイプⅦ柵内・柵外
- ・調査対象：発光するヒメボタル成虫
- ・調査期間：2011年6月17日、7月25日、8月10日 夜
- ・調査時間：20：00～23：00
- ・調査方法：夜間、1ヶ所において30分程度の目視により、発光しているヒメボタルの個体数を数える。(当初は1分間での目視による個体数計数を予定していたが、確認個体が少なかったため方法を変更した)

## 3) 結果

タイプⅦの柵内のみでヒメボタル成虫が確認された(表3)。

表3. ヒメボタル成虫の確認個体数(－は調査せず)

	6月17日	7月25日	8月10日
大台山の家付近	－	0	－
駐車場周辺	0	0	－
タイプⅦ柵内	0	3	0
タイプⅦ柵外	0	0	－

## ○ハバチ類調査

- ・現在、同定分析中。